

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

1	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	p.2
	(1) 学生の確保の見通し	p.2
	ア 定員充足の見込み	p.2
	イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	p.3
	(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況	p.11
2	人材需要の動向等社会の要請	p.14
	(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	p.14
	(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえた ものであることの客観的な根拠	p.14

学生の確保の見通し等を記載した書類

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

①入学定員設定の考え方

今回設置する教育学部教育学科は、入学定員を 100 人、3 年次編入学定員 5 人（収容定員 410 人）とする予定である。本学では、幼児教育を担う人材養成をおこなう学科として、四年制に生涯福祉学部こども福祉学科、同一法人の短期大学部に保育科を設置している。

このうち、生涯福祉学部こども福祉学科を基礎となる学部とし、令和 5（2023）年度に学生募集を停止し、教育学部教育学科を設置する。

新たに設置する教育学部教育学科では、教員としての使命感や情熱を持ち、発達や学びの連続性を踏まえた就学前教育及び学校教育に関する高度な専門知識と優れた技能・実践力を有し、子どもの個性と環境の多様性に対応しながら、共生社会の一員として地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

基礎となる学部等である生涯福祉学部こども福祉学科の入学定員は 50 人であるが、教育学科では入学定員を 50 人増員し 100 人とする。こども福祉学科では幼児教育及び保育を担う人材養成を目的としており、新たに設置する教育学科は、幼児教育、保育に加え、小学校教諭、特別支援学校教諭の人材養成を目的としていることから、入学定員を 100 人と設定した。また、同一法人内の保育科第一部の入学定員を 100 人から 80 人へ減じ（ $\Delta 20$ 人）、法人全体での教員養成のバランスを踏まえ、入学定員を設定した。

加えて、生涯福祉学部社会福祉学科に 3 年次編入学（5 人）を令和 5（2023）年度に設定する。社会福祉学科は人間の福利を広く「人間一人ひとりの能力開発を支援すること」と捉え、少子高齢社会に対応しながら、人々とその環境に働きかけることにより、家族や地域の福祉力を高めるソーシャルワーカーを養成することを目的とし、平成 20（2008）年度に設置した。以来、少人数教育を活かした丁寧な教育により、地域で活躍する社会福祉人材（社会福祉士、精神保健福祉士）を輩出してきた。社会福祉学科設置後、十数年が経過する中で、地域で活躍する社会福祉士の必要性がますます高まっており、本学では、この社会的要請に応じ、少しでも多くの福祉人材を輩出するため、3 年次編入学定員（5 人）を設定する。

令和 5（2023）年度に計画している本学及び同一法人の学則変更の概要は〔表 1〕のとおりである。

〔表1〕本学園の教育者・保育者の人材養成における学部構成

《令和4(2022)年度》

《令和5(2023)年度以降(完成時)》

(兵庫大学)

学部名 学科名	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	増減
教育学部 教育学科	二	—	二	⇒	<u>100</u>	<u>5</u>	<u>410</u>	<u>410</u>
生涯福祉学部 こども福祉学科	<u>50</u>	<u>5</u>	<u>210</u>		二	二	二	<u>△210</u>
生涯福祉学部 社会福祉学科	40	二	<u>160</u>		40	<u>5</u>	<u>170</u>	<u>10</u>

(兵庫大学短期大学部)

学部名 学科名	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	増減
保育科第一部	<u>100</u>	—	<u>200</u>	⇒	<u>80</u>	—	<u>160</u>	<u>△40</u>

入学定員及び編入学定員の変更にあたっては、本学の主要な募集地域である兵庫県内の高等学校卒業者の進路状況、近隣競合校の募集状況および定員充足状況、ならびに本学への進学希望アンケート調査の結果などを踏まえ、本学が収容定員増員以前と同等以上の教育内容を担保できる適正規模を検討し決定した。

また、人材需要の動向等については、現在の教育・保育人材の現状、ソーシャルワーク専門職の現状及び社会環境等を踏まえ、本学が養成する人材は十分な需要があり、社会からの要請があることを確認した。

本学及び同一法人内の短期大学で培ってきた教育者・保育者の人材養成及び社会福祉人材養成の実績から、その教育内容をさらに充実・発展させることで、今後も適切な志願者及び入学者を維持し、収容定員変更後も入学定員を充足していくことが十分に可能であると考える。

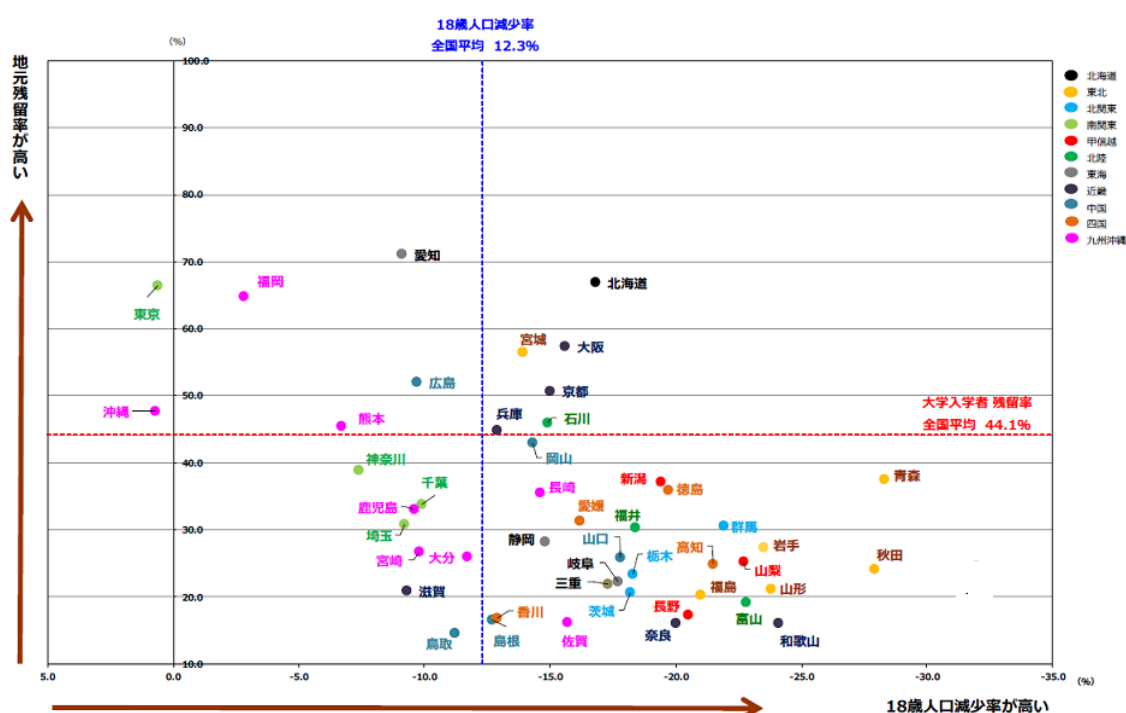
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

①18歳人口の動向

リクルート進学総研の「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向2020年」によると、全国の18歳人口は令和2(2020)年の116.7万人から、令和14(2032)年には14.3万人が減少し、102.4万人(減少率12.3%)となると予測されている。エリア別で見ると、本学が所在する兵庫県は減少率が12.9%と予測されて

おり、全国平均とほぼ同等の減少率となっている。また、2020年度の（参考）大学・短期大学・専門学校進学率ランキングによると、兵庫県の大学進学率は57.9%と全国で3番目に高く、地元残留率は近畿で46.3%となっており、大学への進学率が高く、そのうち約半数が地元に進学している【資料1】。〔図1〕の18歳人口減少率×地元残留率を見ると、兵庫県は18歳人口減少率及び地元残留率が全国平均とほぼ同数となっており、急激な変化がなく比較的安定している地域といえる。

〔図1〕 18歳人口減少率×地元残留率



【資料1 18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 (リクルート進学総研 マーケットリポート) (抜粋)】

②同系統学部 of 学部学科の動向

日本私立学校振興・共済事業団発行の「令和3(2021)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、本学が新たに設置する「教育学部教育学科」と同系統学部は、全国で104学部あり、志願動向では入学定員17,832人に対し、志願者は100,983人となっており、前年度から17,866人減少している。令和3(2021)年度の入学定員充足率は94.40%と減少したものの、過去5年間における入学定員充足率は平成29(2017)年度は102.52%、平成30(2018)年度は100.26%、令和元(2019)年度は100.75%、令和2(2020)年度は100.09%と、100%付近で推移しており、志願者が安定している学問分野といえる【資料2】。

【資料2 教育学系大学(私立)の設置数・志願者数・入学者数・入学定員充足率】

③本学への大学進学状況

本学の入試状況を見ると平成 29（2017）年度から令和 3（2021）年度の過去 5 年間で平均した入学者の出身県は、兵庫県が 85.4%、兵庫県を除く近畿地区が 3.3%、中国地区 4.6%、四国地区 2.3%となっており、近畿地区・中四国地区の入学者が全体の 95.6%を占める〔表 2〕。また、県別で見ると、兵庫県に次いで多い順番では、大阪府、岡山県、北海道、広島県、高知県、鳥取県、香川県、島根県となっている〔表 3〕。本学では、通学圏内である兵庫県及び大阪府、中四国地区を学生募集の重点地域としており、実績としても本学がターゲットとしている地域からの入学が多い。

〔表 2〕 本学の地域別入学者の動向（平成 29 年～令和 3 年度実績）昇順

地域	人数	割合
兵庫県	1,575	85.4%
中国地区	85	4.6%
近畿地区	60	3.3%
四国地区	42	2.3%
北海道地区	27	1.5%
九州地区	25	1.4%
中部地区	14	0.8%
関東地区	10	0.5%
沖縄地区	5	0.3%
東北地区	2	0.1%

※近畿は兵庫県を除く。

※外国の学校卒、専修学校高等課程、高卒認定等、留学生を除く。

〔表 3〕 本学の県別入学者の動向（平成 29 年～令和 3 年度実績）昇順

地域	人数	割合
兵庫県	1,575	85.4%
大阪府	36	2.0%
岡山県	31	1.7%
北海道	27	1.5%
広島県	20	1.1%

地域	人数	割合
高知県	16	0.9%
鳥取県	14	0.8%
香川県	12	0.7%
島根県	11	0.6%
他地域等	103	6.8%

※外国の学校卒、専修学校高等課程、高卒認定等、留学生を除く。

本学の主な募集地域（近畿圏・中四国圏）における中長期的な 18 歳人口予測値【資料 3】によると、本学所在地である兵庫県は、令和 14（2032）年には 18 歳人口は 45,542 人となり、令和 2（2020）年度に比べ、-12.9%となると予測されている。少子高齢社会

の到来により、関東地域の一部を除き、全ての都道府県において18歳人口は減少の一途を辿る。そのような中、兵庫県は全国や近畿圏と比較しても中長期的に18歳人口の減少が比較的緩やかである。また本学の募集戦略のターゲット地域では、高知県（-21.5%）及び大阪府（-15.6%）の増減率は全国平均（-12.3%）を上回るとされるものの、広島県（-9.7%）や鳥取県（-11.2%）と全国平均より増減率が少ない地域もある。後述するが、本学では、ターゲット地域での戦略的な募集活動を展開することにより、学生確保を強化している。

【資料3 本学の主な募集地域の18歳人口予測値】

④近隣大学における同系統の学部学科の状況

本学の主な募集地域である近畿地区のうち、通学圏内となる兵庫県、大阪府、京都府に所在する教育系学部は24学部である。

そのうち、兵庫県では教育系学部を設置する大学は11大学となっている。過去3年間の入試結果をみると、令和元（2019）年度では、入学定員2,145人に対し志願者は13,528人、入学者は2,127人である。令和2（2020）年度では入学定員2,165人に対し志願者は11,949人、入学者は2,159人、令和3（2021）年度では入学定員2,125人に対し志願者は10,640人、入学者は1,795人となっている。兵庫県内の大学の入学定員充足率を平均すると、令和元（2019）年度=99.2%、令和2（2020）年度=99.7%、令和3（2021）年度=84.5%となり、「②同系統学部の学部学科の動向」と同様、令和3（2021）年度は減少傾向にあるものの、100%付近で推移している。また、志願者数についても令和3（2021）年度に10,640人となるが、令和元（2019）年度は13,528人、令和2（2020）年度において11,949人が兵庫県内の教育系学部を志願しており、入学定員に対し約5倍の志願者がいることが分かる【資料4】。

また、本学教育学部と競合が予測される大学は神戸女子大学、神戸常盤大学、関西福祉大学、姫路大学である。これらの大学は、本学が特に募集重点地域としている兵庫県西部から神戸地区に所在し、いずれの大学も本学の通学範囲と重複する。競合が予想される大学の教育系学部の取得可能資格を一覧にすると、〔表4〕のとおりとなる。

〔表4〕競合が予想される大学の比較

大学名称	学部名称	学科・コース	幼一 種免	小一 種免	中・高 一種免	特支一 種免	保育士
神戸女子大学	文	教育	○	○	英語		○
神戸常盤大学	教育	こども教育・教員養成	○	○			
神戸常盤大学	教育	こども教育・保育者養成	○				○
関西福祉大学	教育	児童教育	○	○			○
姫路大学	教育	こども未来	○	○			○

競合が予想される大学の定員充足率は、令和 3 (2021) 年度では、全国的な傾向として志願者、入学者ともに減少しているものの、令和元 (2019) 年度、令和 2 (2020) 年度ともに 1.0 倍を超え、安定的に定員を確保できている。また、取得可能資格を比較すると、幼稚園教諭一種免許、小学校教諭一種免許、保育士資格はいずれの大学も取得可能であるが、神戸女子大学のみ中学校・高等学校教諭一種免許(英語)を取得可能となっている。本学では、幼稚園教諭一種免許、小学校教諭一種免許、保育士に加え、特別支援学校教諭一種免許を取得可能とする。また、兵庫県の私立大学の教育系学部において、特別支援学校教諭一種免許を取得可能な大学は 6 大学(芦屋大学、関西学院大学、関西国際大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和女子大学、武庫川女子大学)あるが、全ての大学が兵庫県東部に位置しており、本学部を設置することで、兵庫県西部における幼児教育、初等教育、特別支援教育人材の養成を担うことが可能となる。

【資料 4 近隣大学の教育学分野の大学の募集状況】

⑤本学の既設学部の募集状況

本学では、同系統の学部学科として、生涯福祉学部こども福祉学科、同一法人の短期大学部において、保育科第一部・保育科第三部を有する。これら学部学科の過去 5 年間の募集状況を見ると、生涯福祉学部こども福祉学科の入学定員充足率では、平成 29 (2017) 年度=1.16、平成 30 (2018) 年度=0.70、令和元 (2019) 年度=1.02、令和 2 (2020) 年度=0.82、令和 3 (2021) 年度=1.14 となっている。過去 5 年間の入学定員充足率で見ると 0.96 となり、年度により差異はあるものの、安定的な入学状況といえる。

次に、短期大学保育科第一部の入学定員充足率は、平成 29 (2017) 年度=0.96、平成 30 (2018) 年度=1.02、令和元 (2019) 年度=0.79、令和 2 (2020) 年度=0.80、令和 3 (2021) 年度=0.66 であり、過去 5 年間の平均入学定員充足率は 0.84 となっている。保育科第三部は、平成 29 (2017) 年度=1.00、平成 30 (2018) 年度=1.12、令和元 (2019) 年度=1.07、令和 2 (2020) 年度=1.11、令和 3 (2021) 年度=0.87 であり、過去 5 年間の平均入学定員充足率は 1.03 となっている【資料 5】。日本私立学校振興・共済事業団発行の「令和 3(2021) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、教育系の入学定員充足率は、令和 2 (2020) 年度は 81.44%、令和 3 (2021) 年度は 78.99%となっており、全国的な傾向として、短期大学においては志願者が減少傾向にあるものの、教育系は他分野に比べても減少幅が大きい。本学では、このような状況を鑑み保育科第一部については、令和 5 (2023) 年度より入学定員を 100 人から 80 人に定員減を行うこととしている。

新しく設置する教育学部教育学科においては、これまでの幼児教育・保育の専門職養成に加え、初等教育及び特別支援教育の教員養成を行うこととしている。複数の学校種について横断的に理解し、子どもの成長を見守ることのできる人材を養成する。

【資料5 既設学部の募集状況等（生涯福祉学部こども福祉学科、短期大学保育科第一部・保育科第三部）】

⑥第三者機関によるニーズ調査及びその結果からの見通し

本学部の学生募集におけるニーズを客観的に捉えるため、第三者機関に依頼しアンケート調査を実施した。

通学が可能である近隣の高等学校及び入学実績のある高校の計 356 校に調査を依頼し、67 校（9,944 人）から回答を得た（実施率 18.8%）。調査結果は以下の通りとなった。

このアンケート調査において、本学部への入学対象者となる高校 2 年生 418 人（全回答者の 4.2%）より「受験したい」という結果が得られ、その 418 人の回答者に対して入学を希望するかを質問したところ、入学定員 100 人を超える 198 人から「入学したい」という結果が得られた。また「併願校の可否によっては入学を検討する」との回答結果が 210 人より得られた（以下の問 5、問 6 を参照）。さらに、上記 418 人に対して、興味・関心のある資格・免許（複数回答可）を聞いたところ、幼稚園教諭一種免許状 210 人、小学校教諭一種免許状 236 人、特別支援学校教諭一種免許状（知・肢・病）86 人、保育士資格 208 人、兵庫大学先進保育士（本学独自資格）50 人との回答があり、教育学部教育学科で取得可能な資格・免許に興味・関心があるといえる。

本調査の結果、教育学部教育学科は入学定員を上回る入学意向を得ていることが示されており、十分な志願者、入学者の確保と定員充足の見込みを示す結果を得た【資料6】。

調査目的	本調査は、兵庫大学が令和 5（2023）年 4 月設置に向けて構想中の「教育学部 教育学科（仮称）」の入学生確保の見通しを、大学外の公正な第三者機関によりアンケートを用いて測ることを目的とする。
調査時期	令和 3（2021）年 10 月～12 月
調査対象	令和 5（2023）年度の大学入試を受験する可能性が最も高い、令和 3（2021）年度の高校 2 年生をアンケートの対象とした。
調査方法	兵庫大学の「教育学部教育学科（仮称）」への通学が可能である近隣の高等学校及び入学実績のある高校の計 356 校に実施を依頼。実施の承認が得られた各校にアンケートを送付。各校の教員が調査対象である高校 2 年生にアンケート用紙を配布の上、回答後にその場で回収した。
実施高校	兵庫県・大阪府・京都府・岡山県・香川県・鳥取県・島根県・徳島県の高等学校 67 校
実施人数	9,944 人
調査実施	株式会社高等教育総合研究所

<入学意向アンケート調査結果（主要な設問のみ抜粋）>

（教育学部 教育学科への受験意思）

問 5 あなたは兵庫大学が設置構想中の「教育学部 教育学科（仮称）」を受験したいと思いますか。（あてはまるもの1つにマーク）

選択項目	回答数	構成比
受験したい	418	4.2%
現時点では受験しない	9,162	92.1%
（無回答）	364	3.7%
合計	9,944	100.0%

※各構成比＝回答数÷9,944（全回答者数）

（教育学部 教育学科への入学意思）

問 6 あなたは兵庫大学が設置構想中の「教育学部 教育学科（仮称）」を受験して合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの1つにマーク）

選択項目	回答数	構成比
合格した場合、入学したい	198	47.4%
合格した場合、併願大学の結果によっては入学したい	210	50.2%
（無回答）	10	2.4%
合計	418	100.0%

※各構成比＝回答数÷418（問5「受験したい」選択者数）

（教育学部 教育学科の資格・免許への興味・関心）

問 7 兵庫大学が設置構想中の「教育学部 教育学科（仮称）」で、現時点であなたが興味・関心のある資格・免許をお答えください。（あてはまるものすべてにマーク）

選択項目	回答数	構成比
幼稚園教諭一種免許状	210	50.2%
小学校教諭一種免許状	236	56.5%
特別支援学校教諭一種免許状（知・肢・病）	86	20.6%
保育士資格	208	49.8%
兵庫大学特別支援保育士（本学独自資格）	50	12.0%

※ 複数回答可のため、構成比の合計は100.0%以上となる。

※ 選択項目「兵庫大学特別支援保育士」は「兵庫大学先進保育士」に名称を変更

【資料6 兵庫大学「教育学部教育学科（仮称）」

設置構想についての高校生アンケート調査報告書】

（教育学部教育学科（3年次編入学））

幼児教育・保育または初等教育の現場で勤務される方、教育・保育学関係の短期大学または教育・保育系専門学校を卒業された方、その他社会人等を対象として調査を実施し、5,122人から回答を得た。調査結果は以下の通りとなった。

このアンケート調査において、本学部への編入学に対し308人（全回答者の6.0%）より「受験したい」という結果が得られ、その308人の回答者に対して編入学を希望するかを質問したところ、入学定員5人を超える164人から「入学したい」という結果が得られた。

本調査の結果、教育学部教育学科は3年次編入学定員を上回る入学意向を得ていることが示されており、十分な志願者、入学者の確保と定員充足の見込みを示す結果を得た【資料7】。

調査目的	本調査は、兵庫大学が令和5（2023）年4月設置に向けて構想中の「教育学部 教育学科（仮称）」の編入学生の学生確保の見通しを、大学外の公正な第三者機関によりアンケートを用いて測ることを目的とする。
調査時期	令和3（2021）年11月
調査対象	幼児教育・保育または初等教育の現場で勤務される方、教育・保育学関係の短期大学または教育・保育系専門学校を卒業された方、その他社会人等をアンケートの対象とした。
調査方法	近畿圏に在住の上記対象者に対して Web にてアンケートを実施。兵庫大学「教育学部 教育学科（仮称）」の概要を確認したうえで、アンケートへの回答をお願いした。
実施人数	5,122人
調査実施	株式会社高等教育総合研究所

<入学意向アンケート調査結果（主要な設問のみ抜粋）>

（教育学部 教育学科（3年次編入学）への受験意思）

問6 兵庫大学が設置構想中の「教育学部 教育学科（仮称）」では、2025年4月より3年次編入の受け入れを予定しています。あなたは「教育学部 教育学科（仮称）」への編入学を希望し、受験したいと思いませんか。（あてはまるもの1つにマーク）

選択項目	回答数	構成比
受験したい	308	6.0%
現時点で受験しない	4,814	94.0%
合計	5,122	100.0%

※各構成比＝回答数÷5,122（全回答者数）

（教育学部 教育学科への編入学意思）

問7 兵庫大学の「教育学部 教育学科（仮称）」の3年次編入学試験に合格した場合、入学しますか。（あてはまるもの1つ）

選択項目	回答数	構成比
合格した場合、入学する	164	53.2%
合格した場合、状況によって入学する	143	46.4%
（無回答）	1	0.3%
合計	308	100.0%

※各構成比＝回答数÷308（問6「受験したい」選択者数）

【資料7 兵庫大学「教育学部教育学科（仮称）」編入学についてのアンケート調査報告書】

（2） 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学においては、安定的な学生確保に向け、学生募集の専門部署として入学部入学課を設置し、さらに、大学全体の広報を学長室で行っており、両部署を中心に様々な広報活動を展開している。また、学生募集戦略、入試制度検討を行うため、各学科教員と入学課で審議するための「学生募集・入試制度検討委員会」を設置している。本委員会は入学部長を委員長に置き、入学部事務部長、入学課長、各研究科・学科教員（研究科・学科より各1人）により構成され、本学のアドミッション・ポリシーに基づく学生募集を展開するため、学生募集全般及び入試制度全般に関する事項を審議している。委員会では、学生募集に係る総括を行いながら、この総括や社会情勢を踏まえ、毎年度学生募集戦略を策定し、それに基づく多様な戦略を展開、必要に応じて戦略の改善を図っている。

本学における学生確保に向けた主な取組としては、高校訪問、オープンキャンパス、模擬授業、高等学校からの来訪見学会、入試説明会や進学相談会等が挙げられる。また、大学案内や学部紹介パンフレット、受験情報ウェブサイト、公式サイト、動画公開、SNS発信等を行い、教育学部設置に向けた広報活動も計画している。

①高校訪問

本学における高校訪問は、入学部入学課の職員を中心としながら、他部署の事務職員も共

に行っている。高校訪問は、本学が募集強化を行っている兵庫県、近畿地区（兵庫県を除く）、中四国地区を訪問し、高校の先生方と対話する機会を増やしている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、活動が制限されているが、訪問した際には、各高等学校の進路担当教諭に対して、地域に根差した教育活動などの本学の教育に関する取り組みや今後の計画、前年度入試結果の報告、入試概要等の説明や、各高等学校を卒業し本学に入学した学生の近況等の報告を行っている。併せて、各高等学校の志願・受験動向等を含めた情報収集を行い、広報活動、募集活動に繋げている。

②オープンキャンパス

オープンキャンパスは年 10 回（3 月から 9 月、12 月）開催している。全体プログラムでは、入試概要や就職支援体制、奨学金制度等の説明や学生スタッフによるキャンパス見学を行う。学科別プログラムでは学科の特色等の紹介、模擬授業、学生スタッフ及び教員による進学相談などを実施する。本学では、学生スタッフと高校生が触れ合う機会を増やすプログラムを企画しており、等身大の大学生の姿を見せることで、本学への興味・関心を高める取り組みを行っている。このほか、保護者及び高校教諭を対象とした講演会も実施しており、キャリア支援としての教職支援や国家試験対策などの具体的な取り組みについても紹介する。

加えて、令和 2（2020）年度より、「あなただけのオープンキャンパス」として、毎日平日は 16 時から 19 時、土曜日は 10 時から 15 時に、個別での対応を行っている。全体の雰囲気もさることながら、本学の教育活動や施設、これからの各学科の取り組み等、参加者個々の質問に丁寧に応える機会を設けている。この「あなただけのオープンキャンパス」は希望する学科に在籍する学生スタッフも参加し、学生の話や直接聞ける機会を設定している。また、本学への来学が困難な高校生等へは、オンライン個別相談をおこなっており、参加者の希望に沿ったプログラムを実施している。

③出張講義（アカデミック・レクチャー）

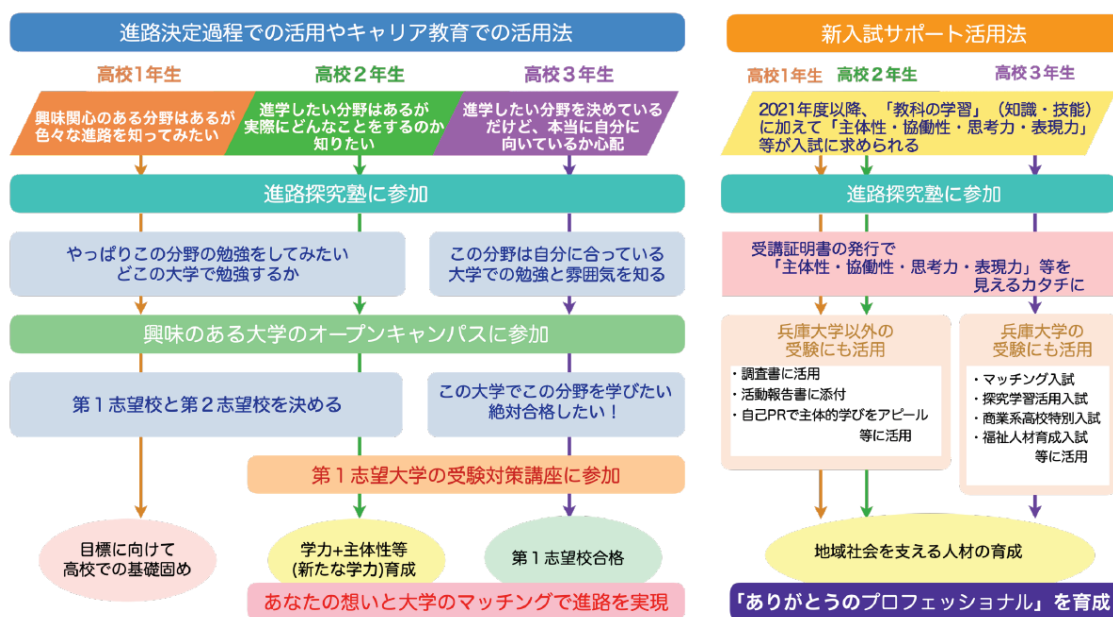
高校からの依頼に基づき、本学の教員を各高校へ派遣し、大学の授業の一部を実施する出張講義を、本学では、「アカデミック・レクチャー」とし、高校へ告知を行っている。本学の学部学科の学問分野を生かした講座として、教養分野、科学・IT 分野、国際・政治分野、ビジネス分野、食物・栄養分野、運動・スポーツ分野、医療・福祉分野、保育・教育分野を展開している。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、対面での授業に制限がかかったこと等から令和 2（2020）年度及び令和 3（2021）年度については、依頼実績は少なかったが、平成 28（2016）年度 21 件、平成 29（2017）年度 29 件、平成 30（2018）年度 13 件、令和元（2019）年度 6 件、令和 2（2020）年度 2 件、令和 3（2021）年度 10 件となっている。今後は、これまで本学で培ってきた高等教育機関での学習及び「アカデミック・レクチャー」で展開してきた探究学習支援のリソースを組み合わせ、学びのパッケージ化を行い、これらを提供することで、高大接続連携教育の強化を図っていく。高大接続教育改革の

中で、学力の3要素（知識・技能、思考力・表現力・判断力、主体性）がより重視されているが、高校と大学が共に教育を展開し、これらの能力を身につけることができるよう、これまで培ってきた高校との連携をさらに進化させるための教育プログラムを検討している。このことにより、高校及び高校生への本学の教育内容への理解を促進することで、引き続き本学で学びたい学生を創出していく。

④進路探究塾

興味のある分野の学びを理解し、進路決定等に活用できる機会を提供するため、本学では進路探究塾を開催している。自身の進路選択に悩む高校生に対し、興味・関心のある分野について、自身に合っているのか、どのような教育研究活動を行うのか、どのような力が身につく、どのようなキャリアが見込めるか等を紹介するプログラムとして実施している。高校1年生は、興味・関心のある分野に進学するために必要な高校での学びに対する意欲の向上が見込まれ、高校2年生、3年生においては、自身の興味・関心を確認し、更なる学習意欲の向上が見込まれる。進路探究塾では、希望者には本学の紹介や入試対策、進路相談等を行っている。

〔図2〕進路探究塾の活用方法



⑤公式ウェブサイト

受験生向けの特設サイトとして「受験生応援サイト」を運用し、受験生が必要とする情報をリアルタイムで提供することとしている。オープンキャンパス情報や、入試情報の他、大学の最新ニュースやイベント情報等の告知を行っている。また、合格者向けサイトを作成し、入学前教育（フォローアッププログラム）の紹介、クラブ・サークル活動の紹介や学生生活

の風景を紹介している。

加えて公式 LINE や公式 Instagram の SNS を活用し、本学の様子について更新を行っている。これらの取り組みは、受験生に対する情報発信だけでなく、入学予定者に入学後の生活をイメージできる工夫を行うことで、歩留まり対策にもなっている。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

教育学部教育学科は、既設学部である生涯福祉学部こども福祉学科でこれまで実践・展開してきた就学前教育（幼稚園教諭養成）及び特別支援教育を基盤に、さらにその教育領域を拡張・充実させるため、学校教育（小学校教諭養成・特別支援学校教諭養成）における高い実践力を有する人材育成を行う。教員としての使命感や情熱を持ち、発達や学びの連続性を踏まえた就学前教育及び学校教育に関する高度な専門知識と優れた技能・実践力を有し、子どもの個性と環境の多様性に対応しながら、共生社会の一員として地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。その具体的な養成する人材は以下のとおりである。

- ・教育者・保育者としての使命感と情熱、道徳性を身につけるとともに、学校や地域の課題を発見し、解決する力を身につけ、他の教育者・保育者や保護者、地域社会と適切な関係性を構築し、協働して地域社会に貢献することができる人材
- ・多様性に対応する能力や子ども理解（特別支援教育を含む）に基づき、教育を取り巻く状況をよりよくするための幅広い教養を基盤として、物事を深く思考する力や洞察力を有する人材
- ・教育活動全体の基盤となる基礎的素養及び教職に関する専門的知識・技能を向上させ、これらに基づいて的確な教科等の指導や保育を反省的に実践することができる人材

このような人材を養成するため、教育学部教育学科では、次代を生きる子どもを育てる教育者・保育者の視点から、①GIGA スクール構想に対応した ICT 教育の推進、②個別の教育的ニーズに対応した教育の推進、③地域との連携を重視した教育の推進の3つを教育方法の特色としている。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①社会的及び地域的な人材需要の動向等

本学部は、既設学部である生涯福祉学部こども福祉学科でこれまで実践・展開してきた就学前教育（幼稚園教諭養成）及び特別支援教育を基盤に、さらにその教育領域を拡張・

充実させるため、学校教育（小学校教諭養成・特別支援学校教諭養成）における高い実践力を有する人材育成を行う。教員としての使命感や情熱を持ち、発達や学びの連続性を踏まえた就学前教育及び学校教育に関する高度な専門知識と優れた技能・実践力を有し、子どもの個性と環境の多様性に対応しながら、共生社会の一員として地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。

急速に変化する時代の中で、人格形成や国家・社会の形成を担う人材の育成に、教育が果たす役割は大きく、子どもたちが心身ともに健やかに育つ環境を整備することができる実践力の高い教員、活気のある学校づくりを担うことができる教員の養成が求められている。

人材需要の動向として、幼児教育・保育の全国的な動向を見ると、「保育士の有効求人倍率の推移（全国）」によると、直近の令和3年10月の保育士の有効求人倍率は2.66倍（対前年同月比で0.08ポイント上昇）となっており、全職種平均の1.16倍（対前年同月比で0.1ポイント上昇）と比べると、依然高い水準で推移している【資料8】。兵庫県に限定すると過去5年間の保育士の有効求人倍率では、1.94～2.68倍で推移しており、依然、保育人材の確保が求められている。

〔表5〕 兵庫県の有効求人倍率等の状況

	新規求職 申込件数	有効 求職者数	新規 求人数	有効 求人数	有効 求人倍率
平成29年11月	192	835	690	1,904	2.28
平成30年11月	187	881	888	2,358	2.68
令和元年5月	155	755	414	1,464	1.94
令和2年10月	199	916	695	2,022	2.21
令和3年10月	168	908	784	2,057	2.27

※出典：厚生労働省ホームページより

教育学部教育学科で養成する人材として、兵庫県公立学校教員採用試験（小学校・特別支援学校）の過去6年間の実施結果を見ると、平成29（2017）年度は受験者数2,238人、倍率4.7倍であったが、徐々に減少を続け、令和4（2022）年度では受験者数は1,636人、倍率は4.0倍となっている。兵庫県においては、過去6年間で受験者数は約70%まで減少し、これに伴い倍率も下降傾向にある【資料9】。

また、大阪府公立学校教員採用選考テスト（小学校・特別支援学校）の過去10年間の実施結果では、平成25（2013）年度は志願者数3,346人、最終倍率3.0倍であったが、受験者数が減少し、令和4（2022）年度では志願者数は1,760人、最終倍率は3.3倍となっている。大阪府においては、最終倍率は過去10年間で3.0倍から4.2倍の間を推移しているが、志願者数は約半数に減少している【資料10】。このことから、両府県ともに受験者は減少を続けており、優秀な人材確保のために受験者数の確保は課題といえる。

【資料 8 保育士の有効求人倍率の推移（全国）】

【資料 9 兵庫県公立学校教員採用候補者選考試験結果】

【資料 10 大阪公立学校教員採用選考テスト結果】

②第三者機関によるニーズ調査及びその結果からの見通し

教育学部教育学科の人材需要の見通しを測定するため、令和 3（2021）年 10 月～令和 3（2021）年 12 月に本学の卒業生の採用が期待できる、これまでの兵庫大学の採用実績のある企業・機関・団体を含む 1,205 件を対象に「教育学部 教育学科」の採用意向アンケート調査を実施した。調査対象事業所の採用担当者に対し、本学が構想中の教育学部教育学科の概要とアンケート用紙を送付し、調査を実施した（無記名アンケート調査）。上記の 1,205 件の採用担当者宛にアンケートを依頼し、317 件から回答を得た（回収率 26.3%）。調査結果は以下の通りとなった【資料 11】。

本調査において、本学部の卒業生の採用意向を質問したところ、卒業生を「採用したい」との回答が 218 件（回答者全体の 68.8%）得られた。それら「採用したい」と回答した 218 件の採用予定人数と各回答数をそれぞれ計算（1 人採用予定×75 件+2 人採用予定×78 件・・・）すると「採用予定人数」の合計が、460 人となった。コロナ禍の影響にあり採用意欲が減少している中においても、本学部の入学定員 100 人を十分に上回る採用需要があることが、本調査にて示された。本調査結果により、本学部の卒業予定者の人材需要が十分に大きく、また、卒業予定者に対する採用意向も確実に存在することが示された。

<採用意向アンケート調査の結果（主要な設問のみ抜粋）>

問 6 兵庫大学「教育学部 教育学科（仮称）」で学び、卒業した人材を採用したいと思われ
れますか。（あてはまるもの 1 つにマークをしてください）

選択項目	回答数	構成比
採用したい	218	68.8%
採用しない	5	1.6%
わからない	89	28.1%
無回答	5	1.6%
合計	317	100.0%

問 7 問 6 で「採用したい」を回答いただいた方は、現時点で採用可能と思われる人数を
お答えください。（あてはまるもの一つにマークをしてください）

回答人数	回答数	採用予定人数	構成比
1 名	75	75	34.4%
2 名	78	156	35.8%
3 名	35	105	16.1%

4名	8	32	3.7%
5名	10	50	4.6%
6名	2	12	0.9%
7名	0	0	0.0%
8名	0	0	0.0%
9名	0	0	0.0%
10名以上	3	30	1.4%
無回答	7	0	3.2%
合計	218	460	100.0%

※問6で「採用したい」を選択した218件の回答者のみ選択可。

※回答のあった数値のみ記載

問9 教育学部 教育学科（仮称）に対して、期待される点やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・実践的スキルの他に、教育者として子どもたちの未来を明るく切り拓くような志の醸成された人たちを期待しています。
- ・心の温かい人間性豊かな人材を育成してほしい。
- ・意欲や向上心を持って仕事にのぞむ基礎的な力は元からつけて就職して頂ければと思う。また、基本的なマナーも身につけてほしい。
- ・人とかかわり方、コミュニケーション力が求められるので、実習を積み重ねていい人材を送って頂きたい。
- ・コミュニケーション能力のある人材。意欲的に社会人としての基礎を身につけられる人材。
- ・状況に応じて自分自身で考え、行動できる人材の育成に期待する。
- ・保育現場ではパソコンを使いこなせる人材が少ないのでスペシャリストになれば非常にありがたい。
- ・貴学の特別支援保育士に期待する。
- ・社会人としての一定のマナー、ICT化に向けての技術、コミュニケーション力。
- ・日頃から、研究者、教授、学生と交流できるような仕組み、仕掛けがあれば、ぜひ協力したい。
- ・専門的な学びを深められる学びの場として、及びその学部学科を卒業し現場に入ってくる学生にとっても期待している。

※自由記述一部抜粋。本学の養成する人材に関連する能力等に下線を追加した。

上記の調査結果により、本学部の卒業予定者が社会に必要と捉えられていることが読み取れ、また、本学部の卒業予定者の採用意向も確実に存在することが示されている。

【資料 11 兵庫大学「教育学部 教育学科（仮称）」設置構想についての人材需要アンケート調査報告書】

③本学の就職実績

本学では、基礎となる学部である生涯福祉学部こども福祉学科及び同一法人の短期大学保育科第一部・第三部において、幼児教育・保育の専門職を養成している。企業を除く過去5年間の幼稚園・保育所・認定こども園・施設からの本学への求人件数等の推移を見ると、平成28(2016)年度=1,713件、平成29(2017)年度=1,761件、平成30(2018)年度=1,744件、令和元(2019)年度=1,499件、令和2(2020)年度=1,492件と若干の増減はあるものの、約1,500件から1,700件で推移しており、安定して幼児教育・保育の専門職への求人がある。本学への求人件数の推移から、本学部を設置した場合でも、十分な求人件数があるといえる【資料12】。

また、就職実績では、生涯福祉学部こども福祉学科では、1期生から5年連続で就職率100%、短期大学部保育科第一部・第三部においても、過去10年間において連続して就職率は100%である。専門職等就職状況では、こども福祉学科では幼稚園・保育所・施設への就職は1期生が卒業した平成29(2017)年度より85%前後の実績を有しており、保育科第一部・第三部においても、過去5年間で86.3%から93.9%の間で推移しており、本学では、これまでの実績から社会的要請に対応した幼児教育・保育の専門職を輩出しているといえる【資料13】。

以上のことから、これまでの本学への企業からの求人件数の実績は、定員を大幅に超える求人件数となっており、教育学部教育学科を設置した後も、安定的かつ継続的に就職先を確保することができる。

【資料12 生涯福祉学部こども福祉学科及び短期大学保育科の就職状況等】

【資料13 生涯福祉学部こども福祉学科及び短期大学保育科の専門職等就職状況】

以上